

# 研究一筋の人生、釜国男先生の退職に寄せて

## Honoring Professor Kunio KAMA in His Retirement : A Distinguished Scholar Devoting His Life to Academic Research

小 林 孝 次 \*  
Koji KOBAYASHI

釜先生は、2018年3月、35年にわたって奉職された創価大学を退職された。まさに研究一筋の人生であり、現在もその研究を続けられているとお伺いしている。

1983年4月、釜先生は、本学の経済学部助教授として、私の恩師の山本拓先生が退職した後任として当時としては数少ない実証研究をされるエキスパートとして着任された。釜先生が本学に推薦された理由は、精力的に論文を執筆される研究者であることと伺っている。まさにその通り、釜先生は1点のブレもなく、研究業績にあるように着任以来『創価経済論集』のほぼ毎号に論文を投稿されていらっしゃる。近年にはそれらを集大成して、著書を連続的に公刊されている。

先生は、東大大学院ではケインズ派の内田忠夫先生に薫陶を受け、アメリカのペンシルベニア大学大学院では合理的期待のマクロ経済学を学ばれた。Ph.Dを取得されて帰国されたときには、ケインジアンから古典派へ改宗かと揶揄されたと言われたと釜先生自身がおっしゃっていた。

ペンシルベニアでは、有名な KAMA's Triangle という言葉があったようで、それは先生を探すには、教室、図書館、学生寮へ行けば必ず見つかるという意味の三角形であったようだが、留学先でも学びに徹せられた生活であったようである。

さらに、驚くべきことは、熊大のときと東大院在学中に2回、国家公務員上級職試験に合格されているとのこと、そしてそれらをすべて蹴って、学究の道を一筋に貫いてこられたことである。

釜先生の本学での着任が、私が創価大学応用経済研究所の助手として採用されたのと同時期であったこともあり、当時同研究所で行われていたサージェント研究会（故加藤寛孝先生を中心に T. J. Sargent の *Macroeconomic Theory* を読み進めていく研究会で数年間続いた）にて、一緒に研究をさせていただいた。また釜先生が作成されたシムズ・テストのコンピュータプログラムを閲覧させていただいたことなど、私は釜先生から研究上数々のご指導をいただいた。とりわけ今でも忘れられない出来事は、私が『創価経済論集』に初めて研究ノートを投稿し、掲載された際に、初歩的な記述のミスをしてしまい、釜先生から「君は何回書き直し、校正をして提出したんだ。

---

\* 創価大学経済学部教授

1度パブリッシュされたものは、2度と書き直せないのだよ」とご忠告をいただいたことである。このご指摘は、私自身が論文作成等の際に今でも気をつけている、大事な留意事項としている。

先生が50代になられたときに40代とは違い疲れる、そして60代になられたときは50代と違い、体がしんどいとおっしゃっていたが、校務から開放された今そしてこれから、益々お元気で、精力的にご研究を続けていかれんことを期待し、先生への感謝と御礼を込めて、筆を置くことにしたい。いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。